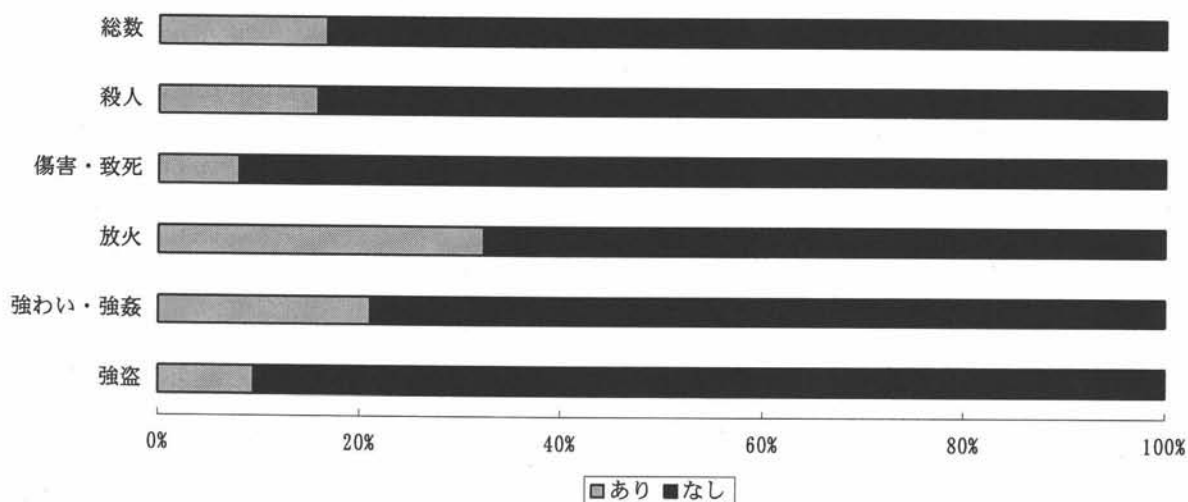


表23 犯罪群別血族中に精神障害者の有無

	総数	あり	なし
総 数	162	27	135
殺 人	38	6	32
傷 害・致 死	50	4	46
放 火	34	11	23
強わい・強姦	19	4	15
強 盗	21	2	19

注 法務総合研究所の調査による。

図26 犯罪群別・血族中に精神障害者の有無別構成比



注 法務総合研究所の調査による。

2 前科前歴及び問題行動歴関係

(1) 前科・前歴・非行歴関係

前科・前歴・非行歴の数は、再犯者の犯罪傾向を探る上で、最も客観的な項目であると思われるので、以下、総数、重大犯罪5罪種の合計数、10年内前科歴数、5罪種ごとの前科歴数、殺傷犯前科歴数、粗暴犯前科歴数、財産犯前科歴数、精神障害の発病前の前科歴数等、多角的に分析を試みた^(注32)。

ア 総数

(ア) 総前科歴数

再犯者の前科・前歴・非行歴（以下まとめて「前科歴」という。）総数の分布及び一人あたりの平均前科歴数は、表24、図27・28、累積百分率は表25のとおりである。

再犯者であるので、1回以上の前科歴を有するのは当然であるが、いずれの類型においても70%以上が2回以上、50%以上が3回以上、30%以上が5回を超える前科歴を有するなど前科歴が多い者の割合が高い。

(注32) 前科は検察事務官作成の前科調書に現れた罪名数、前歴・非行歴は警察の前歴票の記載数によって計算した。従って、実際の犯行回数よりは少ない数となっていることに留意する必要がある。

犯罪群別に見ると、傷害・致死、殺人、強わい・強姦群の前科歴数の多い層の割合の大きさが際だっている（累積百分率^(注33)については、表25のとおりである。）^(注34)。つまり、殺傷犯群と強わい・強姦の性犯罪群では、再犯者のうちでも、3回以上犯罪（同種とは限らない。）をくり返す者が7，8割を占めるなど犯罪累行（反復）傾向が特に強いことが明らかにうかがわれる。

表24 犯罪群別総前科歴数

	総数	1回	2回	3－5回	6－10回	11回以上	平均前科歴数
総数	163	24	29	35	39	36	6.8
殺人	38	5	7	7	8	11	7.6
傷害・致死	50	3	6	11	15	15	8.2
放火	34	7	8	8	7	4	5.1
強わい・強姦	19	5	1	5	4	4	7.8
強盗	22	4	7	4	5	2	4.0

注 法務総合研究所の調査による。

表25 犯罪群別総前科歴数（累積百分率）

	1回以上	2回以上	3回以上	6回以上	11回以上
総数	100.0	85.3	67.5	46.0	22.1
殺人	100.0	86.8	68.4	50.0	28.9
傷害・致死	100.0	94.0	82.0	60.0	30.0
放火	100.0	79.4	55.9	32.4	11.8
強わい・強姦	100.0	73.7	68.4	42.1	21.1
強盗	100.0	81.8	50.0	31.8	9.1

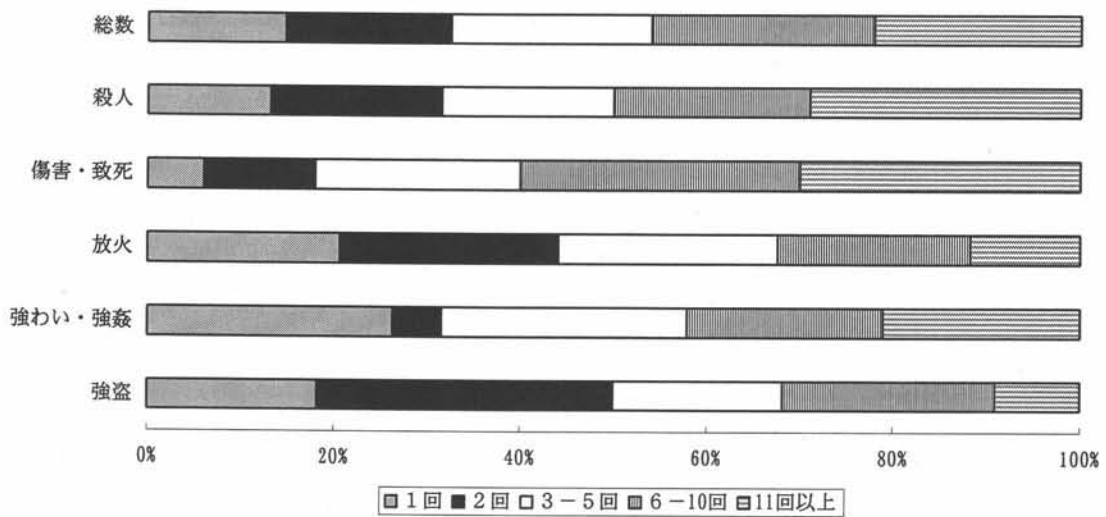
注 1 法務総合研究所の調査による。

2 色をつけたセルは、各罪種群ごとの上位2項目を示す。

(注33) 累積百分率は、各項目について、当該項目以下ないし以上の全体に対する割合を示す百分率。例えば、上記表24・25でみると、殺人群の「11回以上」が11人で割合が28.9%、「6回以上」が19人で50.0%、「3回以上」が26人で68.4%、「2回以上」が33人で86.8%、「1回」以上が100%という値になる。この値を見ることにより、該当する項目が全体のどの位置にあるか（例えば6回以上前科歴のある者は半数を占め、3回以上前科歴のある者が65%を超えている等）が一目瞭然となるので便利である。

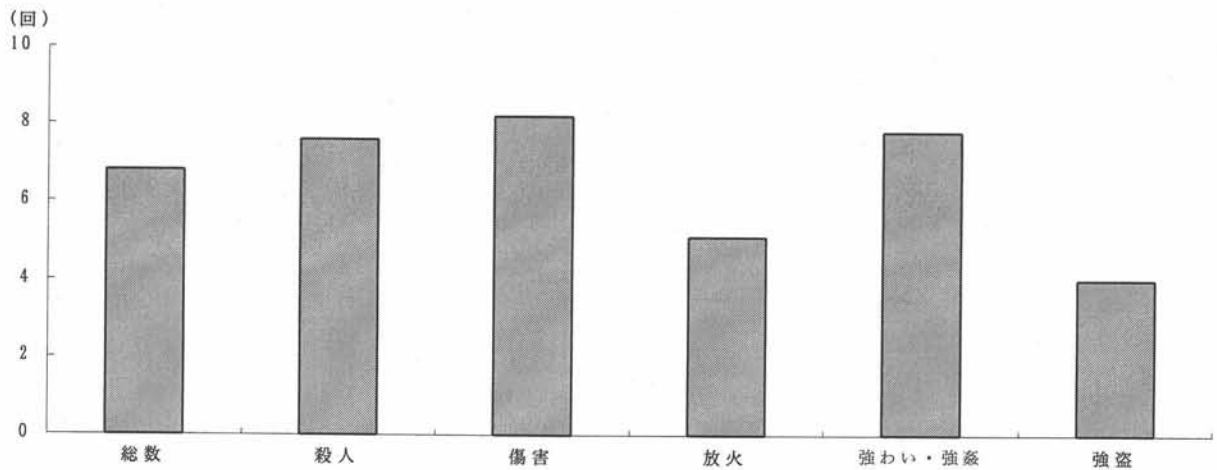
(注34) 強わい・強姦の中には窃盗（賽銭泥棒）を30数回各地で繰り返し、前歴数が27回にもものぼる特異事例1例が含まれているので、平均値については、その点を割り引いて考える必要がある。

図27 犯罪群別・総前科歴数別構成比



注 法務総合研究所の調査による。

図28 犯罪群別前科歴総数（平均値）



注 法務総合研究所の調査による。

(イ) 重大前科歴総数

重大前科歴（殺人、傷害・致死、放火、強わい・強姦、強盗の5罪種の前科歴）の分布は表26、図29、累積百分率は表27、平均値は図30のとおりである。本研究では、重大前科歴が1回以上ある者を対象として選択しているため、すべて1回以上の前科歴を有するのは当然であるが、強盗群以外は60%前後の者に2回以上、35%以上に3回以上の重大前科歴があるなど、強盗群以外は重大前科歴を多数有する者が多い傾向がある。つまり、殺傷犯群、放火群、性犯罪群の再犯者は、重大犯罪についての累行(反復)傾向が強いといえる。

表26 犯罪群別総重大前科歴数

	総数	1回	2回	3－5回	6－10回	11回以上	平均
総数	163	69	36	41	15	2	2.6
殺人	38	16	8	8	5	1	2.8
傷害・致死	50	20	10	11	9	—	2.8
放火	34	14	6	13	1	—	2.4
強わい・強姦	19	7	5	6	—	1	2.5
強盗	22	12	7	3	—	—	1.8

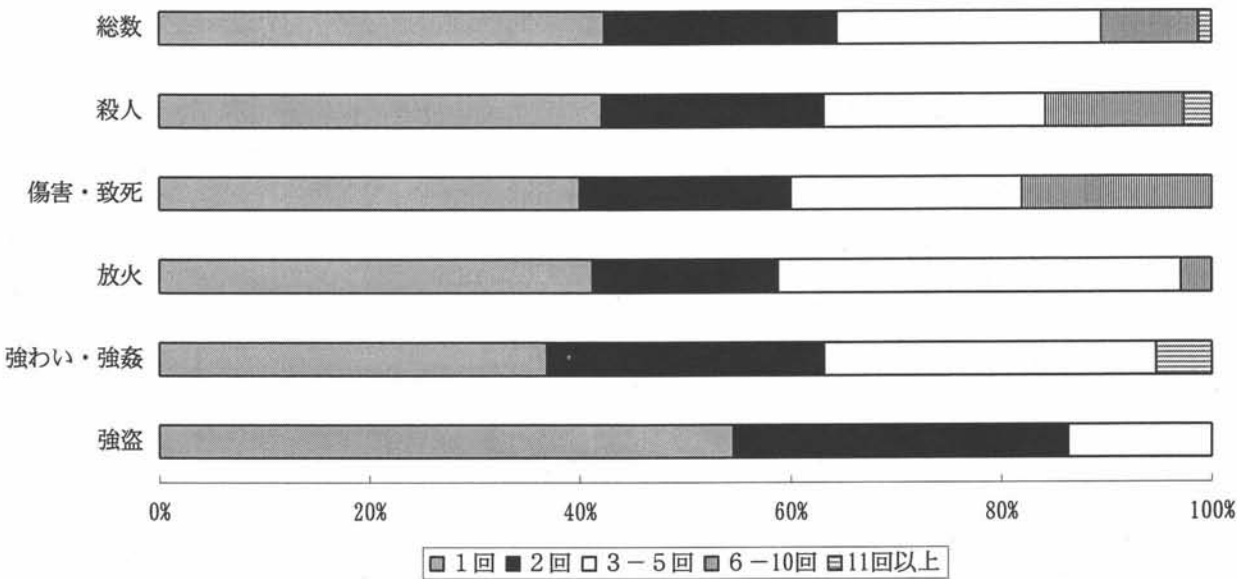
注 法務総合研究所の調査による。

表27 犯罪群別総重大前科歴数（累積百分率）

	1回以上	2回以上	3回以上	6回以上	11回以上
総数	100.0	57.7	35.6	10.4	1.2
殺人	100.0	57.9	36.8	15.8	2.6
傷害・致死	100.0	60.0	40.0	18.0	—
放火	100.0	58.8	41.2	2.9	—
強わい・強姦	100.0	63.2	36.8	5.3	5.3
強盗	100.0	45.5	13.6	—	—

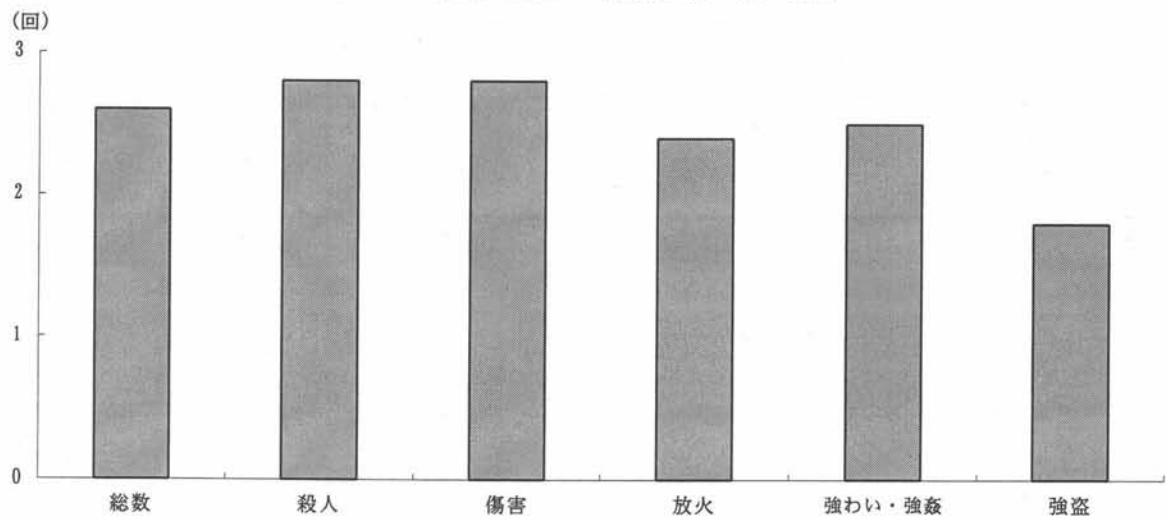
注 1 法務総合研究所の調査による。
2 色をつけたセルは、各罪種群ごとの上位2項目を示す。

図29 犯罪群別・総重大前科歴数別構成比



注 法務総合研究所の調査による。

図30 犯罪群別総重大前科歴数（平均値）



注 法務総合研究所の調査による。

(ウ) 重大前科数

重大前科数の分布は、表28・29、図31、重大前科数の平均値は図32のとおりである。いずれの類型でも50%以上が重大前科を有しており^(注35)、特に、傷害・致死、放火群では、重大前科を有する者が80%程度と高率となっており、殺人、傷害・致死、放火群で、全般的に重大前科数が多い傾向がある。

表28 犯罪群別重大前科数

	総数	なし	1回	2回	3－5回	6－10回	平均
総数	163	53	52	24	26	8	1.6
殺人	38	16	8	4	7	3	1.7
傷害・致死	50	10	20	5	10	5	2.0
放火	34	7	14	7	6	—	1.5
強わい・強姦	19	9	3	4	3	—	1.2
強盗	22	11	7	4	—	—	0.7

注 法務総合研究所の調査による。

表29 犯罪群別重大前科数（累積百分率）

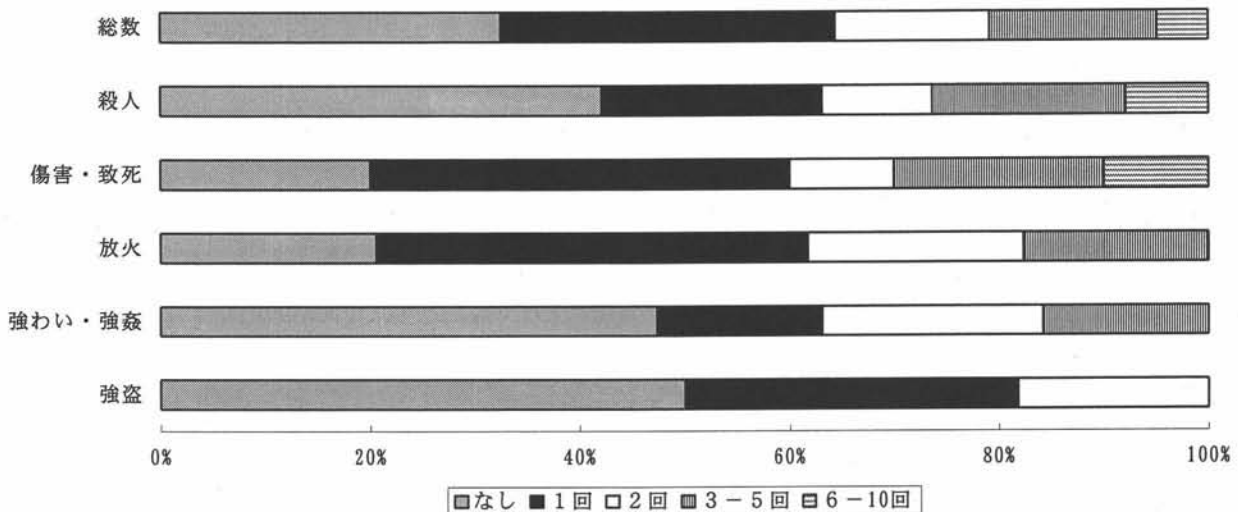
	総数	1回以上	2回以上	3回以上	6回以上
総数	100.0	67.5	35.6	20.9	4.9
殺人	100.0	57.9	36.8	26.3	7.9
傷害・致死	100.0	80.0	40.0	30.0	10.0
放火	100.0	79.4	38.2	17.6	—
強わい・強姦	100.0	52.6	36.8	15.8	—
強盗	100.0	50.0	18.2	—	—

注 1 法務総合研究所の調査による。

2 色をつけたセルは、各罪種群ごとの上位2項目を示す。

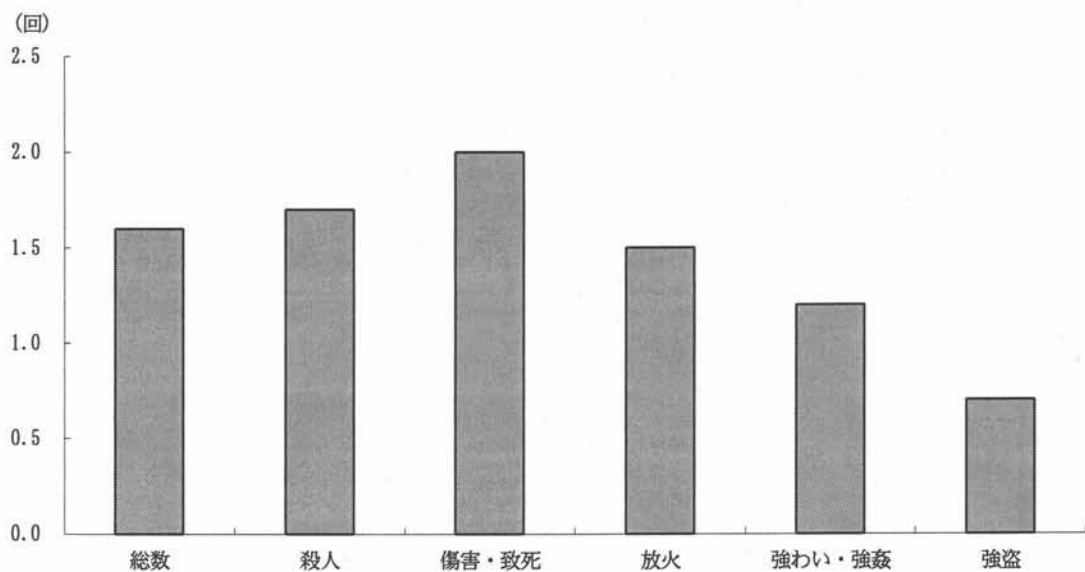
(注35) 研究対象の選択の条件からみて、重大前科なしの者については、重大前歴が1回以上あることになる。

図31 犯罪群別・重大前科数別構成比



注 法務総合研究所の調査による。

図32 犯罪群別重大前科数（平均値）



注 法務総合研究所の調査による。

(エ) 重大前歴数

不起訴となった重大前歴数については、表30・31、図33、重大前歴数の平均値は図34のとおりである。

いずれの類型でも40%以上が重大前歴を有し、特に、殺人、強わい・強姦、強盗群では60%以上が前歴を有している。全般的に殺人、強わい・強姦群で重大前歴数が多い傾向が見られる。

前記(ウ)の傾向と合わせて考えると、傷害・致死、放火群では重大前科が、強わい・強姦群では重大前歴が、殺人群では、重大前科・前歴いずれについても多い傾向があると思われる^(注36)。

(注36) 殺人、傷害・致死、放火群で起訴された前科が多く、強わい・強姦群で不起訴となる前歴が多いのは、前者では暴力的事犯の前科（殺傷犯、粗暴犯）が多い傾向があるのに対して、後者ではむしろ前者に比して暴力的傾向がそれほど強くない者が多いことに一因があるものと思われる。殺傷犯、粗暴犯前科歴と再犯の群別との関係については後述参照。

表30 犯罪群別重大前歴数

	総数	なし	1 回	2 回	3－5 回	平均
総 数	163	71	68	16	8	0.8
殺 人	38	14	17	4	3	0.9
傷 害・致死	50	23	20	5	2	0.8
放 火	34	20	10	3	1	0.6
強わい・強姦	19	6	9	3	1	1.0
強 盗	22	8	12	1	1	0.9

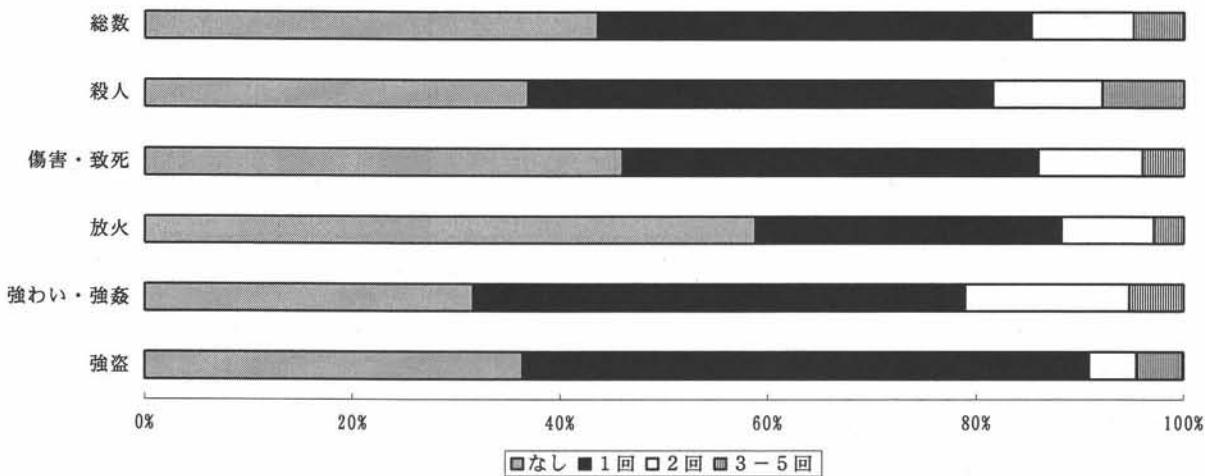
注 法務総合研究所の調査による。

表31 犯罪群別重大前歴数（累積百分率）

	総数	1 回以上	2 回以上	3 回以上
総 数	100.0	56.4	14.7	4.9
殺 人	100.0	63.2	18.4	7.9
傷 害・致死	100.0	54.0	14.0	4.0
放 火	100.0	41.2	11.8	2.9
強わい・強姦	100.0	68.4	21.1	5.3
強 盗	100.0	63.6	9.1	4.5

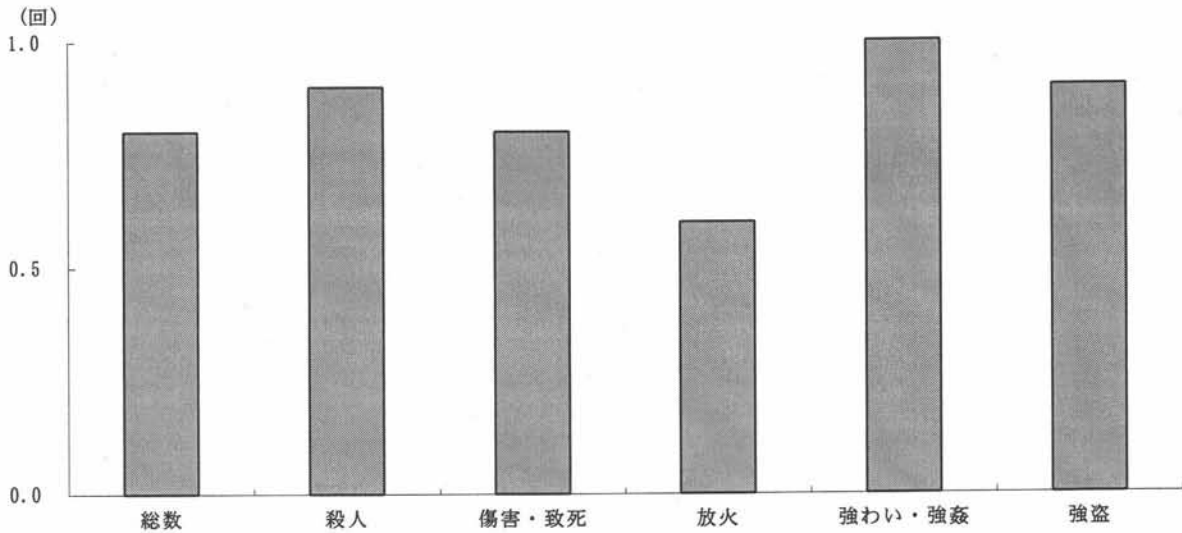
注 1 法務総合研究所の調査による。
2 色をつけたセルは、各罪種群ごとの上位 2 項目を示す。

図33 犯罪群別・重大前歴数別構成比



注 法務総合研究所の調査による。

図34 犯罪群別重大前歴数（平均値）



注 法務総合研究所の調査による。

(オ) 重大非行歴数

重大非行歴数の分布は表32・33, 図35, 重大非行歴数の平均値は図36のとおりである。

重大非行歴数がある者の割合は, 全て30%未満と低いが, その中では, 放火, 強わい・強姦群で比較的高く, 傷害・致死群で低い傾向がある^(注37)。

表32 犯罪群別重大非行歴数

	総数	なし	1回	2回	平均
総数	163	134	26	3	0.2
殺人	38	31	7	—	0.2
傷害・致死	50	46	4	—	0.1
放火	34	25	8	1	0.3
強わい・強姦	19	14	4	1	0.3
強盗	22	18	3	1	0.2

注 法務総合研究所の調査による。

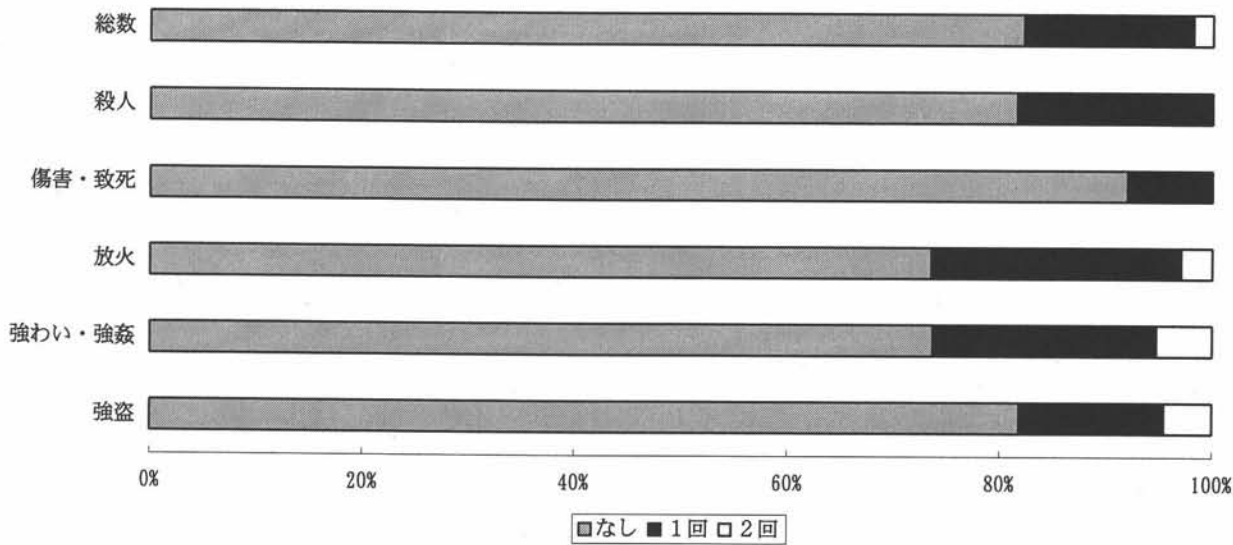
(注37) 強わい・強姦, 放火群で重大非行歴が多い傾向があるのは, 発病年齢が低い者が多く, 早期から是非弁別能力が劣るか欠けるために犯罪を惹起する危険性があるためではないかと思われる。ちなみに, 発病年齢をみると, 強わい・強姦群では, 発病が「当初から」のもの(主として精神遅滞が該当する。)が35.3%を, 放火群では13.8%を占めているのに対して, 殺人群では0%, 傷害・致死群では2.5%, 強盗群では9.5%にすぎず, 特に, 殺傷犯の群と強わい・強姦, 放火群との間に大きな差があることが分かる。

表33 犯罪群別重大非行歴数（累積百分率）

	総数	1 回以上	2 回以上
総 数	100.0	17.8	1.8
殺 人	100.0	18.4	—
傷 害 ・ 致 死	100.0	8.0	—
放 火	100.0	26.5	2.9
強わい・強姦	100.0	26.3	5.3
強 盗	100.0	18.2	4.5

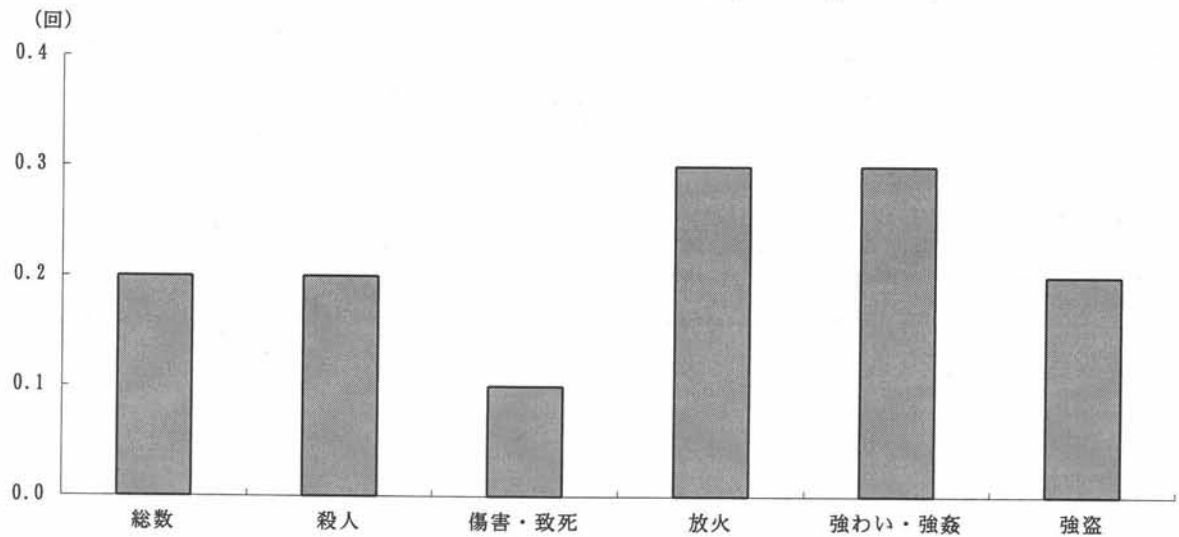
注 法務総合研究所の調査による。

図35 犯罪群別・重大非行歴数別構成比



注 法務総合研究所の調査による。

図36 犯罪群別重大非行歴数（平均値）



注 法務総合研究所の調査による。

(カ) 薬物前科歴数

薬物の作用により精神障害を起こす場合があり、薬物使用歴と一部の精神障害との関連はあると思われるが、そのうち、前科歴（非行歴含む。）として記録上明らかなものの分布は、表34・35、図37、前科歴数の平均値は図38のとおりである^(注38)。

薬物前科歴を有する者は10～35％程度で、傷害・致死群と殺人群とで薬物前科歴数が比較的多い傾向がある。

表34 犯罪群別薬物前科歴数

	総数	なし	1回	2回	3－5回	6－10回	11回以上	平均
総数	163	116	18	9	13	6	1	0.9
殺人	38	24	6	5	3	－	－	0.7
傷害・致死	50	32	3	2	8	4	1	1.6
放火	34	27	6	1	－	－	－	0.2
強わい・強姦	19	17	－	－	1	1	－	0.5
強盗	22	16	3	1	1	1	－	0.7

注 法務総合研究所の調査による。

表35 犯罪群別薬物前科歴（累積百分率）

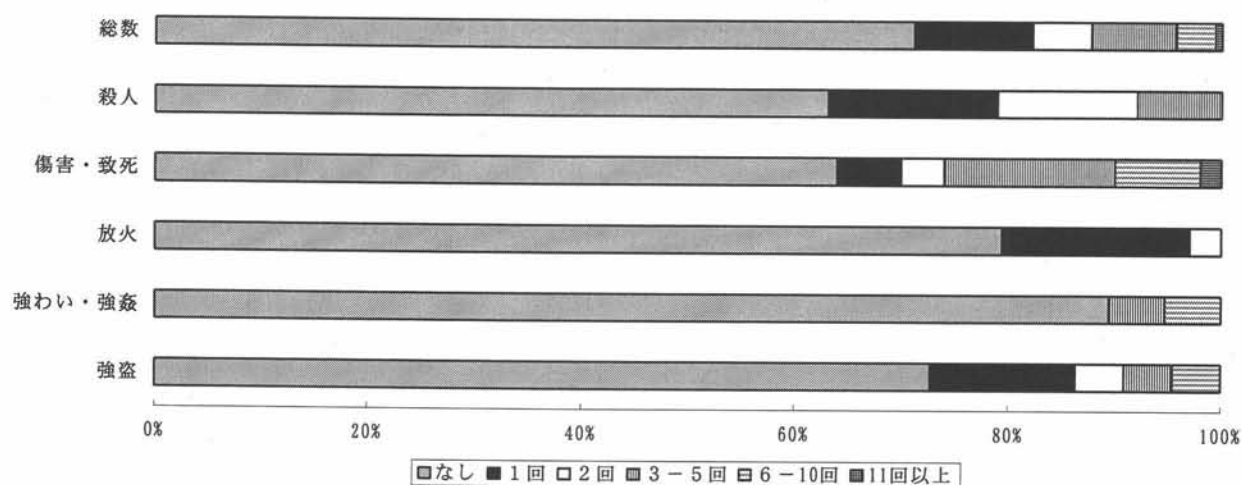
	総数	1回以上	2回以上	3回以上	6回以上	11回以上
総数	100.0	28.8	17.8	12.3	4.3	0.6
殺人	100.0	36.8	21.1	7.9	－	－
傷害・致死	100.0	36.0	30.0	26.0	10.0	2.0
放火	100.0	20.6	2.9	－	－	－
強わい・強姦	100.0	10.5	10.5	10.5	5.3	－
強盗	100.0	27.3	13.6	9.1	4.5	－

注 1 法務総合研究所の調査による。

2 色をつけたセルは、各罪種群ごとの上位2項目を示す。

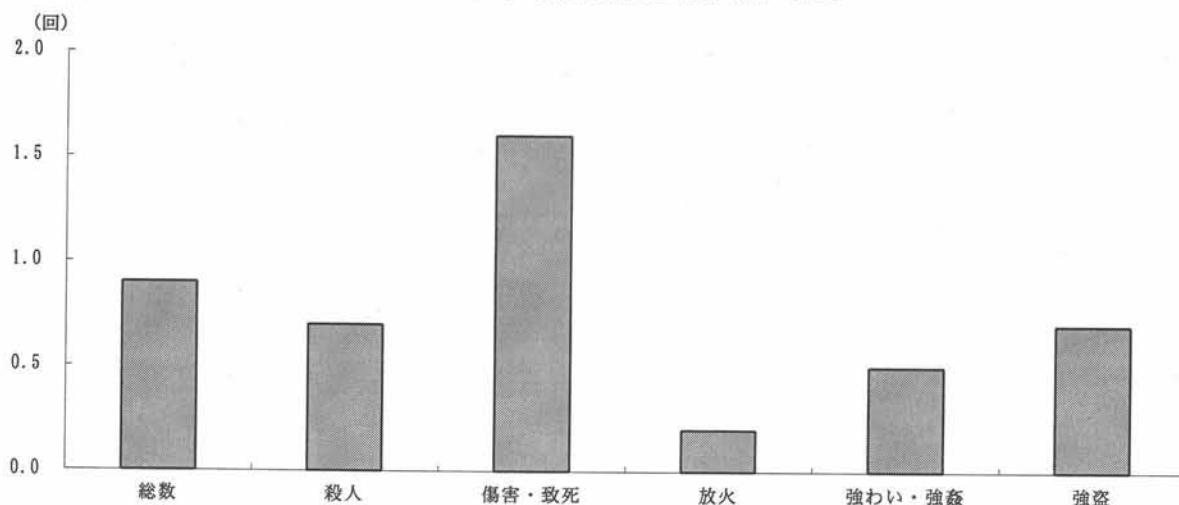
(注38) 薬物中毒の経歴があっても、前科歴がない例がかなり見られた。(そのような事例が、殺人3、傷害・致死4、放火1、強わい・強姦0、強盗1の合計9事例あり。) これらについても含めた薬物使用経歴を有する者の割合を計算すると、殺人群17人、44.7%、傷害・致死群22人、44.0%、放火群8人、23.5%、強盗群7人、31.8%、全体56人、34.4%と、殺人、傷害・致死群において更に割合が高くなる。

図37 犯罪群別・薬物前科歴数別構成比



注 法務総合研究所の調査による。

図38 犯罪群別薬物前科歴数（平均値）



注 法務総合研究所の調査による。

(キ) 10年内前科歴数

最近10年内の前科歴数（再犯着手時から遡って10年内に不起訴処分ないし第一審判決宣告があった場合を10年内前科歴とした。）の分布は、表36・37、図39、10年内前科歴数の平均値は、図40のとおりである。

研究対象を10年内に重大前科歴を1回以上有する者に限定していたので、すべて1回以上の前科歴を有するのは当然であるとしても、2回以上有する者が各類型とも50%前後～85%近くまでの高率を占め、傷害・致死、強わい・強姦群でやや前科歴数が多い傾向がある^(注39)。つまり、10年内に限っても、殺傷犯群と性犯罪群の犯罪累行（反復）傾向は強いといえる。

(注39) なお、強わい・強姦群の平均値が異常に高いのは、各地を放浪して27回賽銭泥棒の前歴を有する特異事例が含まれているためであるので、割り引いて考える必要がある。この特異事例を除外して再計算すると、強わい・強姦群の平均値は3.2、全体では2.8となるが、それでもなお、傷害・致死群と並んで値は高い。

表36 犯罪群別10年内前科歴数

	総数	1 回	2 回	3 - 5 回	6 - 10 回	11 回以上	平均
総 数	163	51	39	53	18	2	3.0
殺 人	38	11	12	12	3	—	2.6
傷 害・致 死	50	8	13	20	9	—	3.3
放 火	34	18	5	8	3	—	2.2
強わい・強姦	19	6	2	8	1	2	4.8
強 盗	22	8	7	5	2	—	2.7

注 法務総合研究所の調査による。

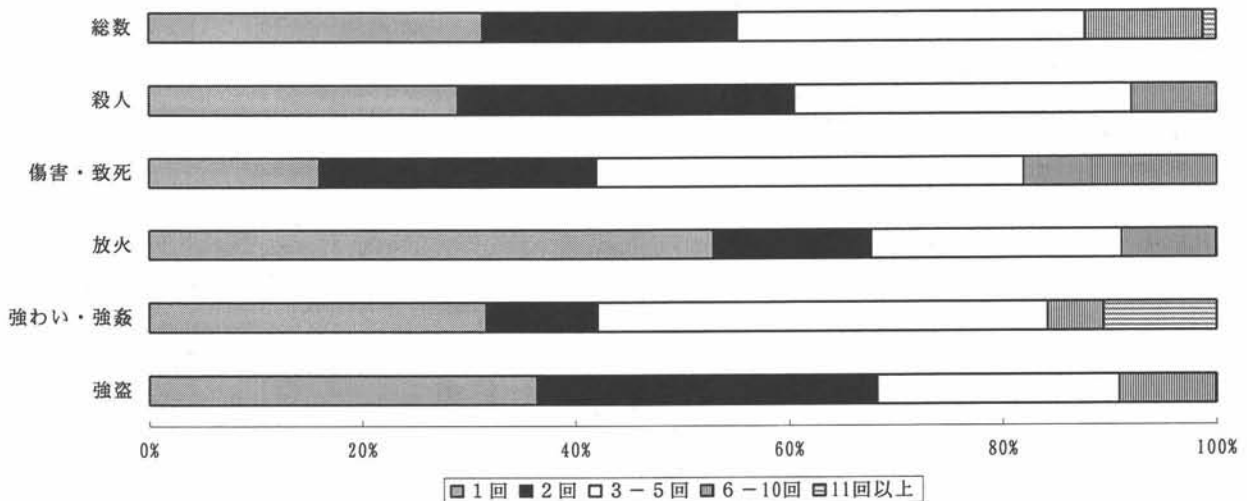
表37 犯罪群別10年内前科歴数（累積百分率）

	1 回以上	2 回以上	3 回以上	6 回以上	11 回以上
総 数	100.0	68.7	44.8	12.3	1.2
殺 人	100.0	71.1	39.5	7.9	—
傷 害・致 死	100.0	84.0	58.0	18.0	—
放 火	100.0	47.1	32.4	8.8	—
強わい・強姦	100.0	68.4	57.9	15.8	10.5
強 盗	100.0	63.6	31.8	9.1	—

注 1 法務総合研究所の調査による。

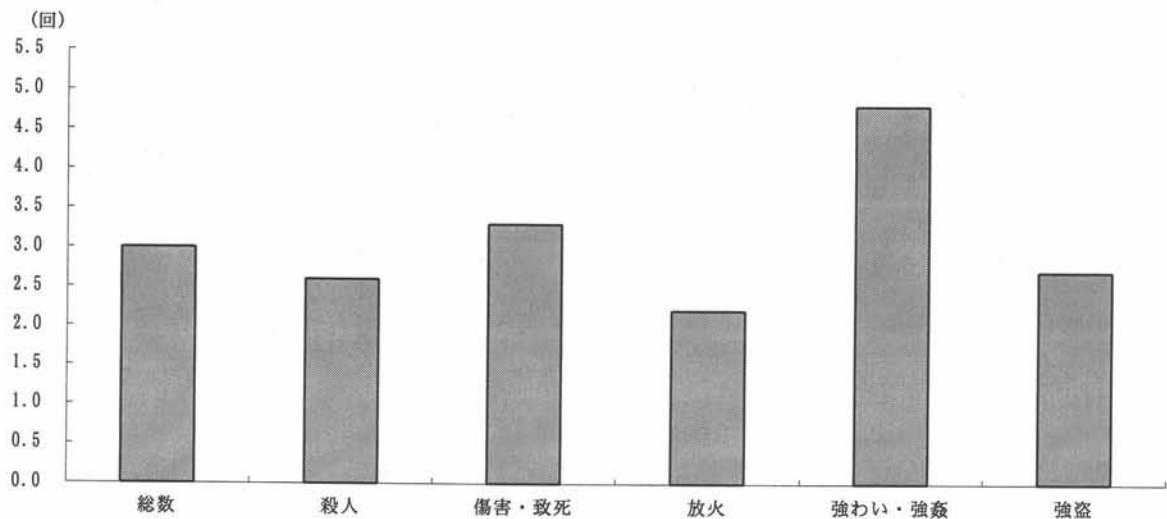
2 色をつけたセルは、各罪種群ごとの上位 2 項目を示す。

図39 犯罪群別・10年内前科歴数別構成比



注 法務総合研究所の調査による。

図40 犯罪群別10年内前科歴数（平均値）



注 法務総合研究所の調査による。

(ク) 10年内前科数

10年内の前科数（前記(キ)と同様の定義付けによる。）分布は表38・39、図41、平均値は図42のとおりである。

前科のある者が60%前後から80%と高く、傷害・致死と放火群では、75%を超える高率となっている。また、全般的に傷害・致死群の場合に、前科のある者の割合が高い傾向が認められる。

表38 犯罪群別10年内前科数

	総数	なし	1回	2回	3－5回	6－10回	平均
総数	163	48	47	27	36	5	1.6
殺人	38	13	10	4	10	1	1.5
傷害・致死	50	10	14	8	15	3	1.9
放火	34	8	15	7	4	—	1.3
強わい・強姦	19	8	4	3	3	1	1.5
強盗	22	9	4	5	4	—	1.2

注 法務総合研究所の調査による。

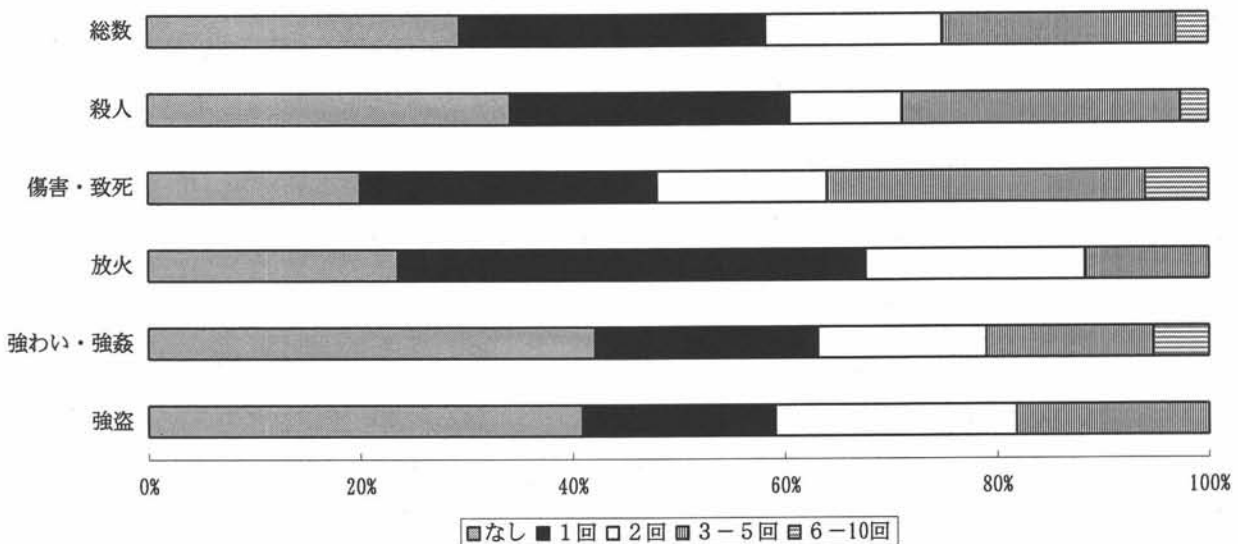
表39 犯罪群別10年内前科数

	総数	1回以上	2回以上	3回以上	6回以上
総数	100.0	70.6	41.7	25.2	3.1
殺人	100.0	65.8	39.5	28.9	2.6
傷害・致死	100.0	80.0	52.0	36.0	6.0
放火	100.0	76.5	32.4	11.8	—
強わい・強姦	100.0	57.9	36.8	21.1	5.3
強盗	100.0	59.1	40.9	18.2	—

注 1 法務総合研究所の調査による。

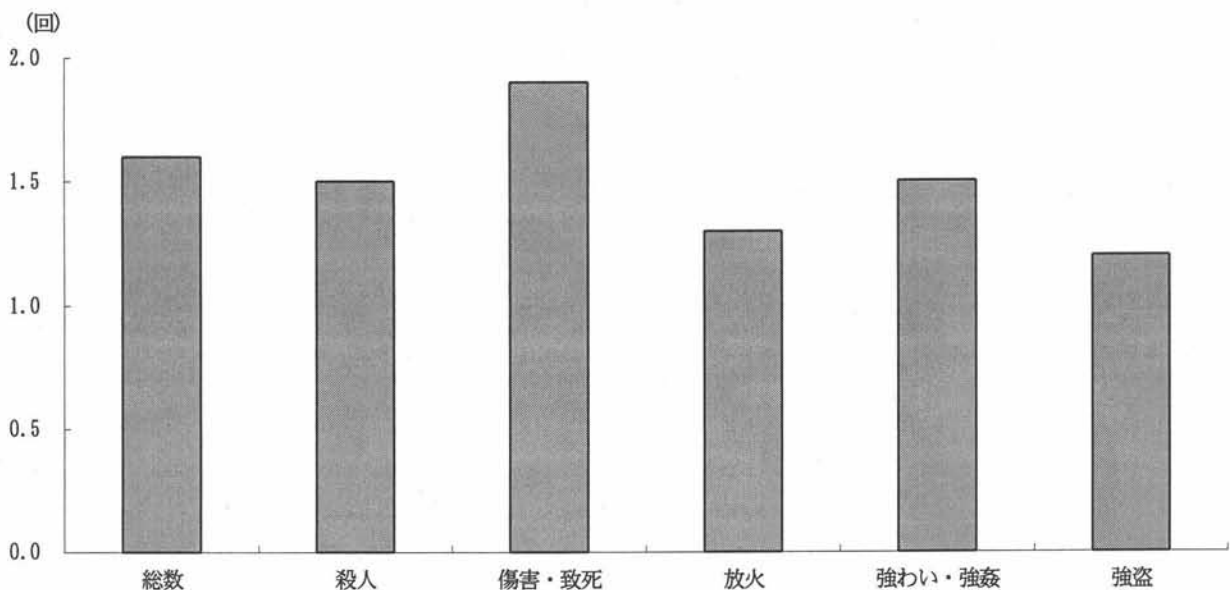
2 色をつけたセルは、各罪種群ごとの上位2項目を示す。

図41 犯罪群別・10年内前科数別構成比



注 法務総合研究所の調査による。

図42 犯罪群別10年内前科数（累積百分率）



注 法務総合研究所の調査による。

(ケ) 10年内前歴数

10年内前歴数の分布は、表40・41、図43、平均値は図44のとおりである。いずれについても前歴を有する者が50%を超えており、強わい・強姦、傷害・致死、強盗群に前歴回数が多い傾向がある。特に強わい・強姦群の前歴回数の多い者の割合の高さが目を引く^(注40)。

前記(ク)の10年内前科数と対比すると、傷害・致死群は前科数・前歴数ともに多く、強わい・強姦、強盗群は前歴数が多い傾向が見られる。

(注40) 強わい・強姦群の平均値が3.3と異常に高いが、これは、窃盗（各地での賽銭泥棒）27回を含む32回の前歴を有する者1名が含まれるため平均値が上がったものであり、この異常値を除外して計算すると、1.7となる。いずれにしろ、強わい・強姦群が平均値で最高値を示していることには変わりはないが、他の群との差はそれほど大きくない。

表40 犯罪群別10年内前歴数

	総数	なし	1回	2回	3－5回	6－10回	11回以上	平均
総数	162	57	57	27	16	4	1	1.4
殺人	38	16	11	8	2	1	—	1.1
傷害・致死	50	15	19	7	8	1	—	1.4
放火	33	16	11	5	1	—	—	0.8
強わい・強姦	19	3	8	3	3	1	1	3.3
強盗	22	7	8	4	2	1	—	1.3

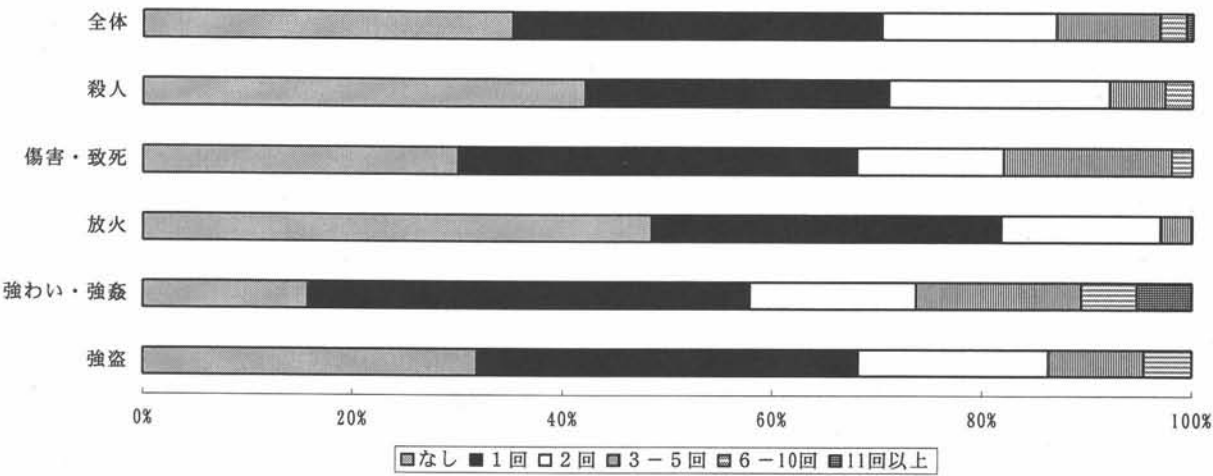
注 1 法務総合研究所の調査による。
2 不明を除く。

表41 犯罪群別10年内前歴数（累積百分率）

	総数	1回以上	2回以上	3回以上	6回以上	11回以上
総数	100.0	64.4	29.4	12.9	3.1	0.6
殺人	100.0	57.9	28.9	7.9	2.6	—
傷害・致死	100.0	70.0	32.0	18.0	2.0	—
放火	100.0	50.0	17.6	2.9	—	—
強わい・強姦	100.0	84.2	42.1	26.3	10.5	5.3
強盗	100.0	68.2	31.8	13.6	4.5	—

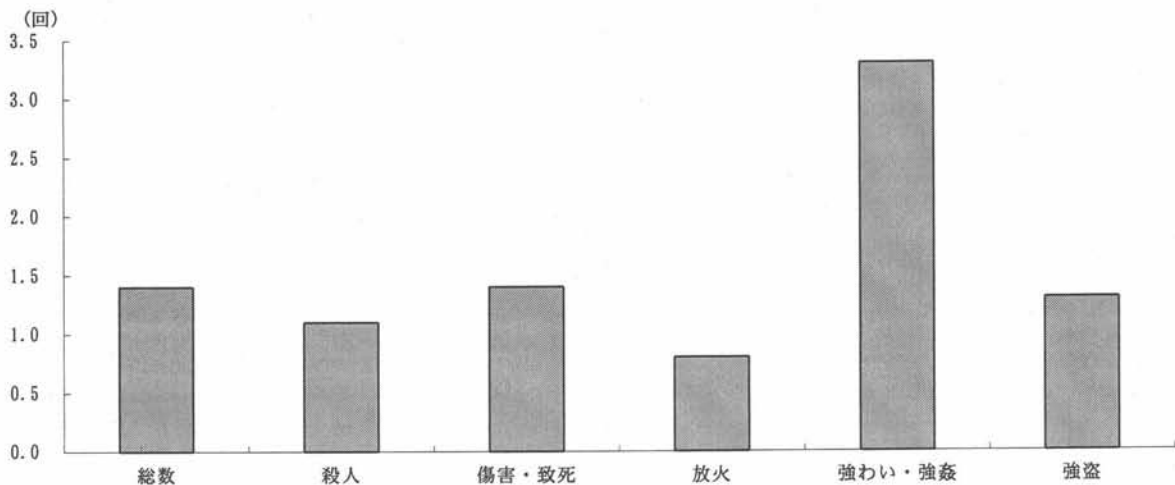
注 1 法務総合研究所の調査による。
2 色をつけたセルは、各罪種群ごとの上位2項目を示す。

図43 犯罪群別・10年内前歴数別構成比



注 法務総合研究所の調査による。

図44 犯罪群別10年内前歴数（平均値）



注 法務総合研究所の調査による。

(コ) 10年内重大前科歴数

10年内重大前科歴（非行歴を含む。）数の分布は、表42・43、図45、平均値は図46のとおりである。10年以内に重大前科歴1回以上を有する者を対象としたので、全てが1回以上の前科歴を有するのは当然であるが、全ての群で25%以上が2回以上の重大前科歴を有し、強わい・強姦、放火群の前科歴数が多く、取り分け強わい・強姦群にその傾向が顕著に見られる。

表42 犯罪群別10年内重大前科歴数

	総数	1回	2回	3－5回	6－10回	平均
総数	163	112	30	20	1	1.6
殺人	38	27	7	4	—	1.4
傷害・致死	50	35	8	7	—	1.5
放火	34	24	5	4	1	1.6
強わい・強姦	19	10	5	4	—	1.7
強盗	22	16	5	1	—	1.4

注 法務総合研究所の調査による。

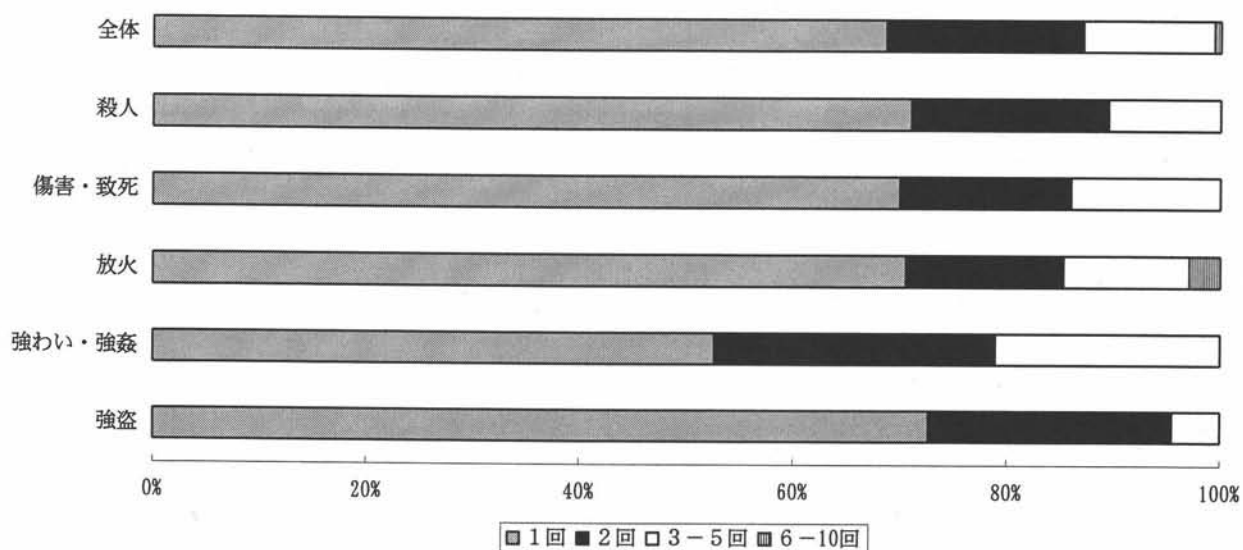
表43 犯罪群別10年内重大前科歴数（累積百分率）

	1回以上	2回以上	3回以上	6回以上
総数	100.0	31.3	12.9	0.6
殺人	100.0	28.9	10.5	—
傷害・致死	100.0	30.0	14.0	—
放火	100.0	29.4	14.7	2.9
強わい・強姦	100.0	47.4	21.1	—
強盗	100.0	27.3	4.5	—

注 1 法務総合研究所の調査による。

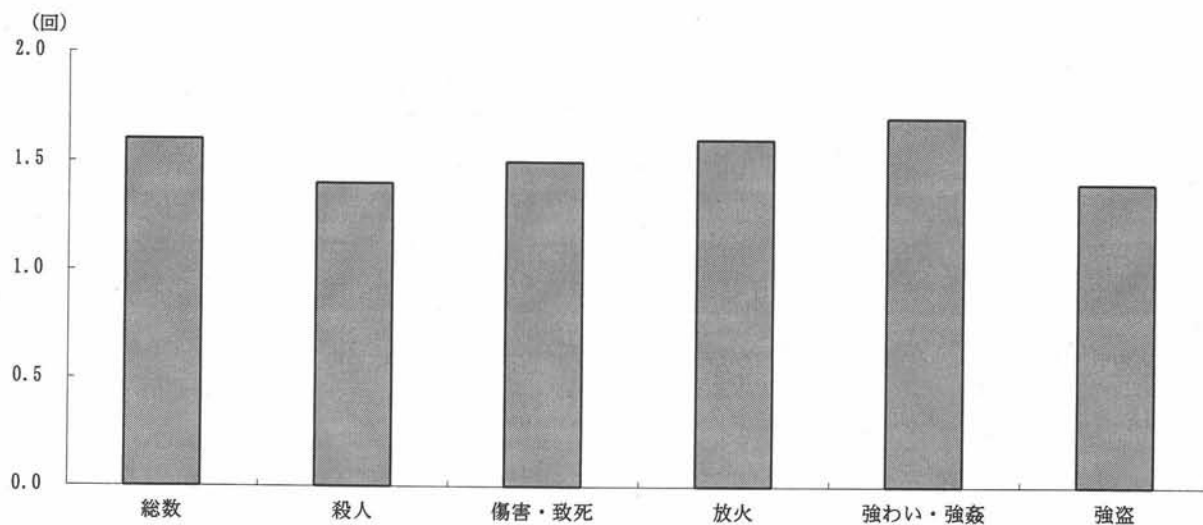
2 色をつけたセルは、各罪種群ごとの上位2項目を示す。

図45 犯罪群別・10年内重大前科歴別構成比



注 法務総合研究所の調査による。

図46 犯罪群別10年内重大前科歴数（平均値）



注 法務総合研究所の調査による。

(㊦) 10年内重大前科数

10年内重大前科数の分布は、表44・45、図47、平均値は図48のとおりである。45%以上の者が10年内に重大前科を有しており、取り分け、傷害・致死群と放火群について重大前科数が多い傾向が見られる。

表44 犯罪群別10年内重大前科数

	総数	なし	1回	2回	3－5回	平均
総数	163	62	71	23	7	0.9
殺人	38	18	12	8	—	0.7
傷害・致死	50	14	28	3	5	1.0
放火	34	8	20	4	2	1.0
強わい・強姦	19	10	4	5	—	0.7
強盗	22	12	7	3	—	0.6

注 法務総合研究所の調査による。

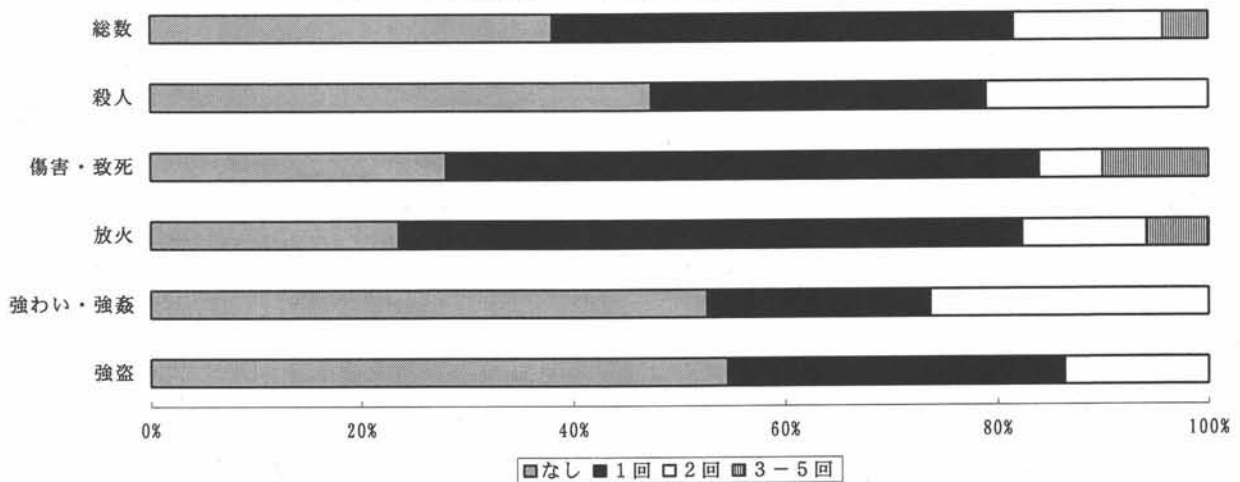
表45 犯罪群別10年内重大前科数（累積百分率）

	総数	1回以上	2回以上	3回以上
総数	100.0	62.0	18.4	4.3
殺人	100.0	52.6	21.1	—
傷害・致死	100.0	72.0	16.0	10.0
放火	100.0	76.5	17.6	5.9
強わい・強姦	100.0	47.4	26.3	—
強盗	100.0	45.5	13.6	—

注 1 法務総合研究所の調査による。

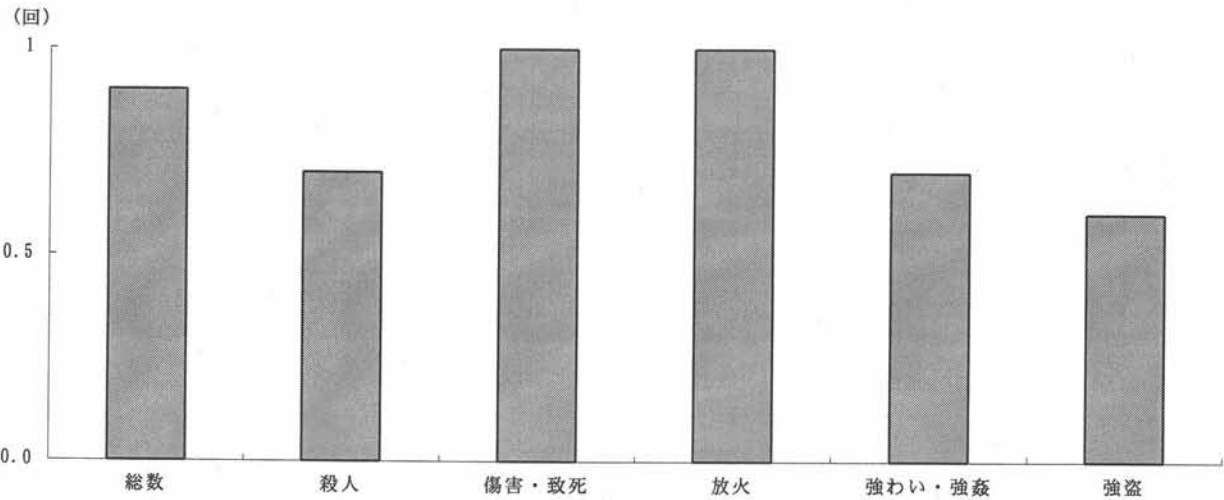
2 色をつけたセルは、各罪種群ごとの上位2項目を示す。

図47 犯罪群別・10年内重大前科数別構成比



注 法務総合研究所の調査による。

図48 犯罪群別10年内重大前科数（平均値）



注 法務総合研究所の調査による。

(シ) 10年内重大前歴数

10年内重大前歴数の分布は表46・47、図49、平均値は図50のとおりである。全ての類型で35%以上の者に、殺人、強わい・強姦、強盗群では、50%を超える者に、それぞれ10年内重大前歴があるのが目立つ。

10年内重大前科を有する者の分布とを対比すると、殺人、強わい・強姦、強盗群では、重大前歴が多く重大前科が少なく、傷害・致死、放火群では、その逆となっていることが分かる。

表46 犯罪群別10年内重大前歴数

	総数	なし	1回	2回	3－5回	平均
総数	163	83	66	11	3	0.6
殺人	38	17	17	3	1	0.7
傷害・致死	50	30	16	4	—	0.5
放火	34	22	10	2	—	0.4
強わい・強姦	19	6	10	2	1	1.0
強盗	22	8	13	—	1	0.8

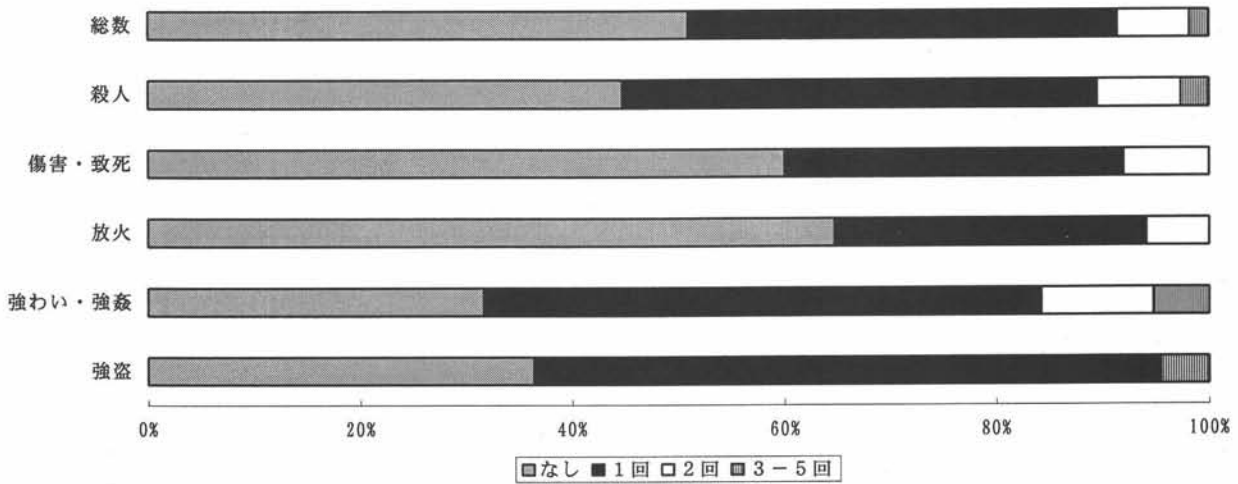
注 法務総合研究所の調査による。

表47 犯罪群別10年内重大前歴数（累積百分率）

	総数	1回以上	2回以上	3回以上
総数	100.0	49.1	8.6	1.8
殺人	100.0	55.3	10.5	2.6
傷害・致死	100.0	40.0	8.0	—
放火	100.0	35.3	5.9	—
強わい・強姦	100.0	68.4	15.8	5.3
強盗	100.0	63.6	4.5	4.5

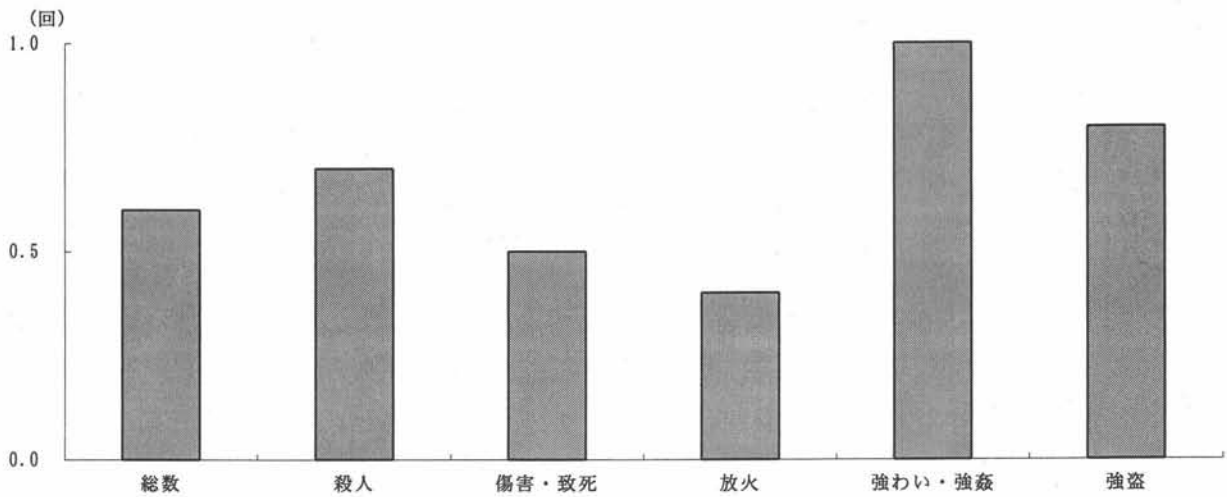
注 1 法務総合研究所の調査による。
2 色をつけたセルは、各罪種群ごとの上位2項目を示す。

図49 犯罪群別・10年内重大前歴数別構成比



注 法務総合研究所の調査による。

図50 犯罪群別10年内重大前歴 (平均値)



注 法務総合研究所の調査による。

(ズ) 10年内薬物前科歴数

10年内薬物前科歴数の分布は表48・49, 図51, 平均値は図52のとおりである。10年内の薬物前科歴は, 傷害・致死群が30%と高い以外はいずれも20%程度以下と低い。

表48 犯罪群別10年内薬物前科歴数

	総数	なし	1回	2回	3-5回	6-10回	平均
総 数	163	131	14	10	7	1	0.4
殺 人	38	30	5	2	1	—	0.3
傷 害・致 死	50	35	5	6	3	1	0.7
放 火	34	31	2	1	—	—	0.1
強わい・強姦	19	17	—	1	1	—	0.3
強 盗	22	18	2	—	2	—	0.4

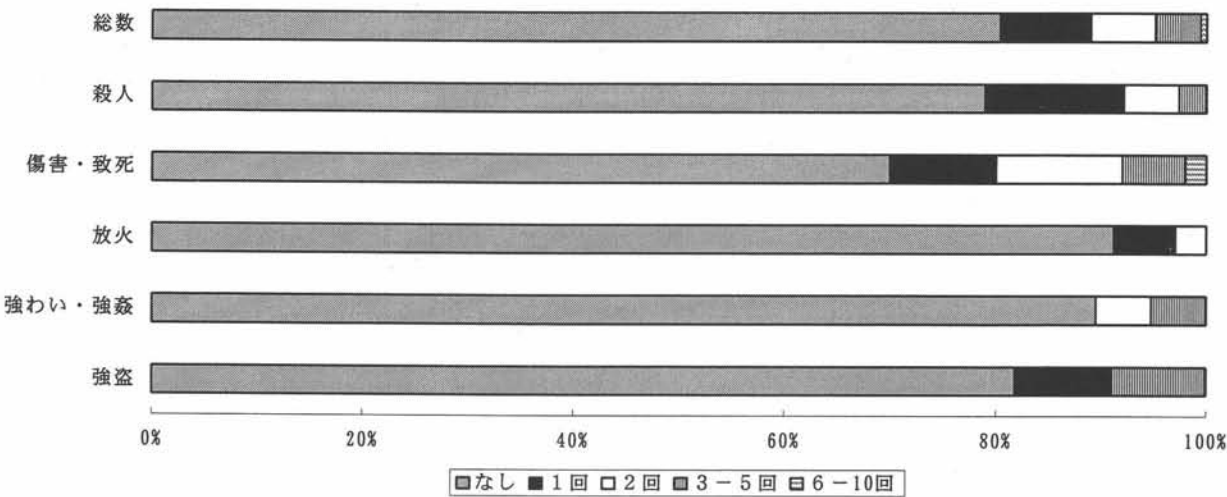
注 法務総合研究所の調査による。

表49 犯罪群別10年内薬物前科歴数（累積百分率）

	総数	1回以上	2回以上	3回以上	6回以上
総数	100.0	19.6	10.4	4.3	0.6
殺人	100.0	21.1	7.9	2.6	—
傷害・致死	100.0	30.0	20.0	8.0	2.0
放火	100.0	8.8	2.9	—	—
強わい・強姦	100.0	10.5	10.5	5.3	—
強盗	100.0	18.2	9.1	9.1	—

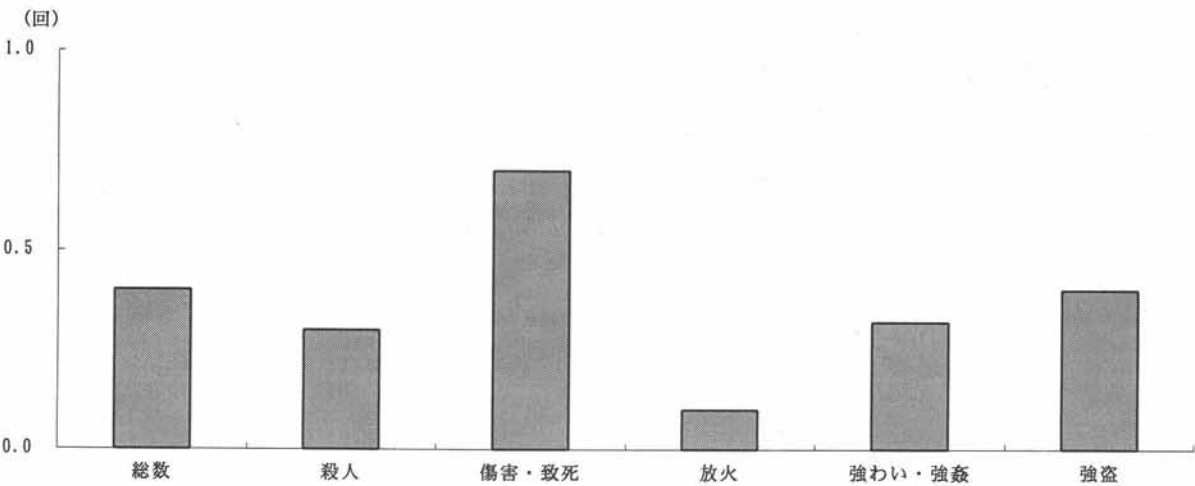
注 1 法務総合研究所の調査による。
2 色をつけたセルは、各罪種群ごとの上位2項目を示す。

図51 犯罪群別・10年内薬物前科歴数別構成比



注 法務総合研究所の調査による。

図52 犯罪群別10年内薬物前科歴数（平均値）



注 法務総合研究所の調査による。

(セ) 10年内実刑前科数

10年内実刑前科（重大前科に限らない）数の分布は表50・51、図53、平均値は図54のとおりである。

いずれの類型もほぼ30%以上が10年内の実刑前科を有しているが、特に傷害・致死，殺人群については、実刑前科を有している割合が40%を超え、前科数が多い者の割合も他に比して多い。

表50 犯罪群別10年内実刑前科数

	総数	なし	1回	2回	3－5回	6－10回	平均
総数	163	102	26	18	16	1	0.7
殺人	38	20	9	3	6	—	0.9
傷害・致死	50	30	6	6	7	1	0.9
放火	34	24	5	5	—	—	0.4
強わい・強姦	19	13	2	2	2	—	0.7
強盗	22	15	4	2	1	—	0.5

注 法務総合研究所の調査による。

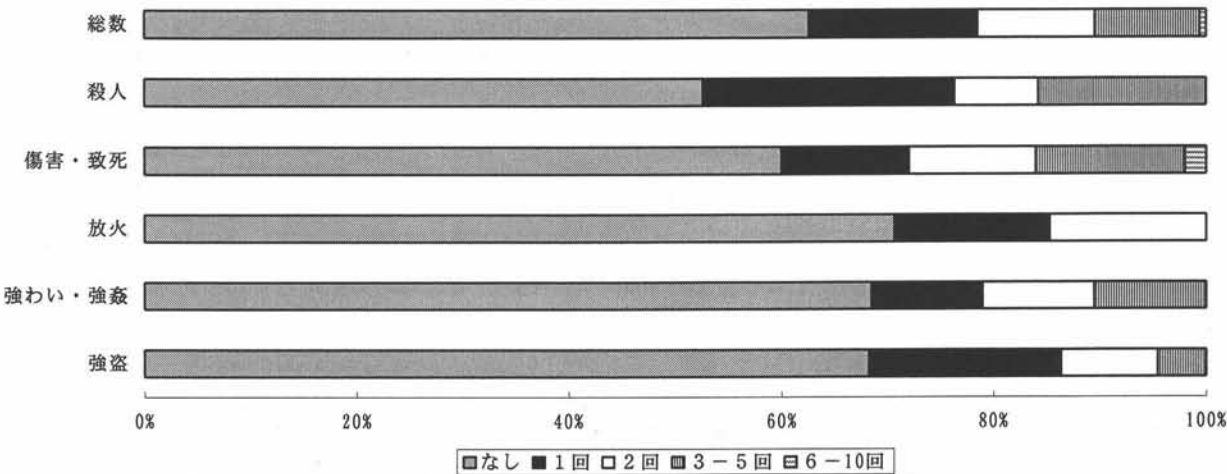
表51 犯罪群別10年内実刑前科数（累積百分率）

	総数	1回以上	2回以上	3回以上	6回以上
総数	100.0	37.4	21.5	10.4	0.6
殺人	100.0	47.4	23.7	15.8	—
傷害・致死	100.0	40.0	28.0	16.0	2.0
放火	100.0	29.4	14.7	—	—
強わい・強姦	100.0	31.6	21.1	10.5	—
強盗	100.0	31.8	13.6	4.5	—

注 1 法務総合研究所の調査による。

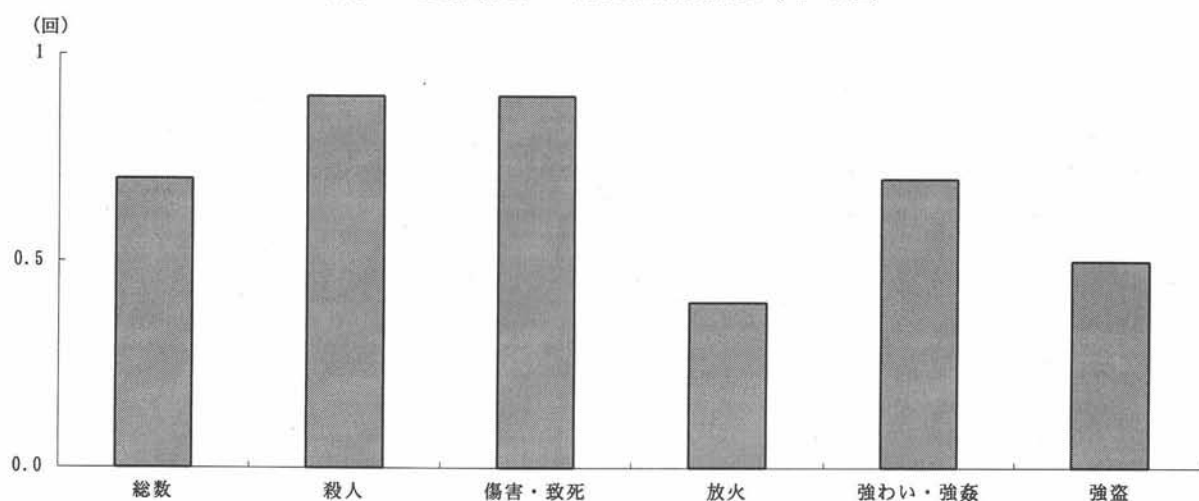
2 色をつけたセルは、各罪種群ごとの上位2項目を示す。

図53 犯罪群別・10年内実刑前科数別構成比



注 法務総合研究所の調査による。

図54 犯罪群別10年内実刑前科数（平均値）



注 法務総合研究所の調査による。

(ウ) 10年内服役期間（月数）

10年内服役期間（月数）^(注41)の分布は表52・53、図55、平均値（全体の平均値及び実刑前科ある者のみに限定しての平均値）は図56のとおりである。ほぼ30%以上に実刑前科があり、殺人、傷害・致死、強わい・強姦群に実刑前科のある者が多い。また、全体の平均値でみると、殺人及び強わい・強姦群の服役期間が他に比して長く、その期間は1年前後であるが、実刑前科を有する者のみに限定すると、いずれについても平均して2年を超える服役期間を経験し、殺人、傷害・致死群よりも、むしろ、強盗、強わい・強姦、放火群が長く、3年前後も服役している。すなわち、最終的に殺傷犯を犯した群よりも他の群の方が、前科で実刑になった場合には長期の服役をしていることになる^(注42)。

表52 犯罪群別10年内服役月数

総数	服役	なし	1-12月	13-24月	25-36月	37-48月	49-60月	61月以上	平均(全体)	平均(服役ありのみ)
総数	163	101	8	17	14	15	4	4	12.2	32.1
殺人	38	20	5	3	4	3	1	2	14.4	30.4
傷害・致死	50	30	3	7	2	6	2	—	11.4	28.5
放火	34	24	—	4	3	2	—	1	10.3	35.1
強わい・強姦	19	12	—	1	2	3	1	—	13.3	36.1
強盗	22	15	—	2	3	1	—	1	12.1	38.1

注 法務総合研究所の調査による。

(注41) 集計の便宜上1月未満の端数は1月に切り上げて計算している。従って実際の服役期間はこの統計結果よりも幾分短いことが予想される。

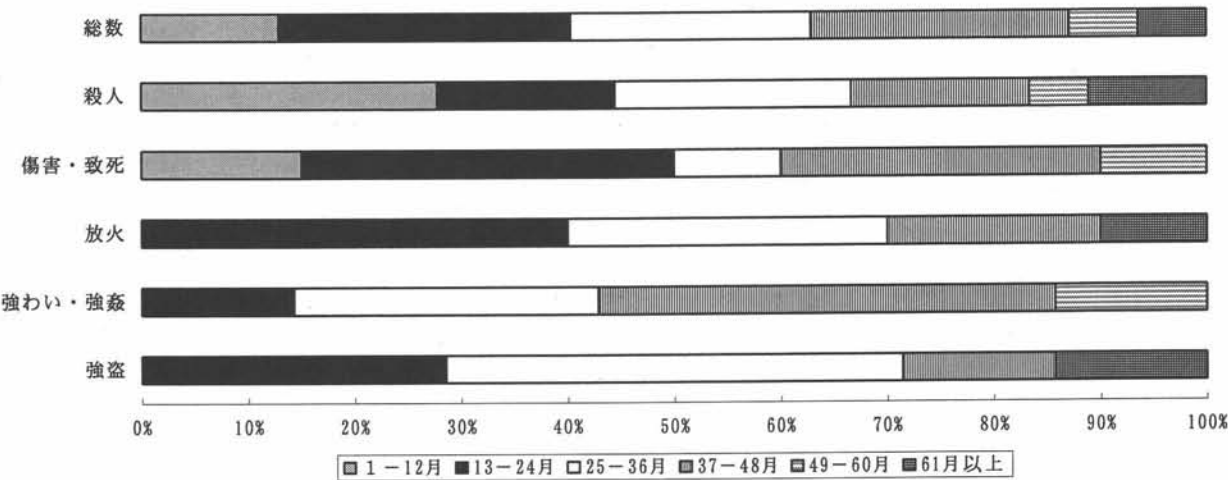
(注42) 殺傷犯の群より他の群が平均刑期が長い理由の詳細は不明であるが、殺傷犯の群が、比較的刑期の短い傷害前科が多く（殺人は刑期は長い、10年以内に限定すると数が極めて少ない。）、その他の群は、傷害前科は比較的少なく、刑期が比較的長い傾向がある強姦、強盗、放火前科が多いことに主たる原因があるのではないと思われる。殺傷犯や他の重大犯罪の前科歴の群別の分布については、後述するとおり、同種事犯の前科が多い傾向が、明らかに現れている。

表53 犯罪群別10年内服役月数（累積百分率）

	総数	1 月以上	13 月以上	25 月以上	37 月以上	49 月以上	61 月以上
総 数	100.0	38.0	33.1	22.7	14.1	4.9	2.5
殺 人	100.0	47.4	34.2	26.3	15.8	7.9	5.3
傷 害・致死	100.0	40.0	34.0	20.0	16.0	4.0	—
放 火	100.0	29.4	29.4	17.6	8.8	2.9	2.9
強わい・強姦	100.0	36.8	36.8	31.6	21.1	5.3	—
強 盗	100.0	31.8	31.8	22.7	9.1	4.5	4.5

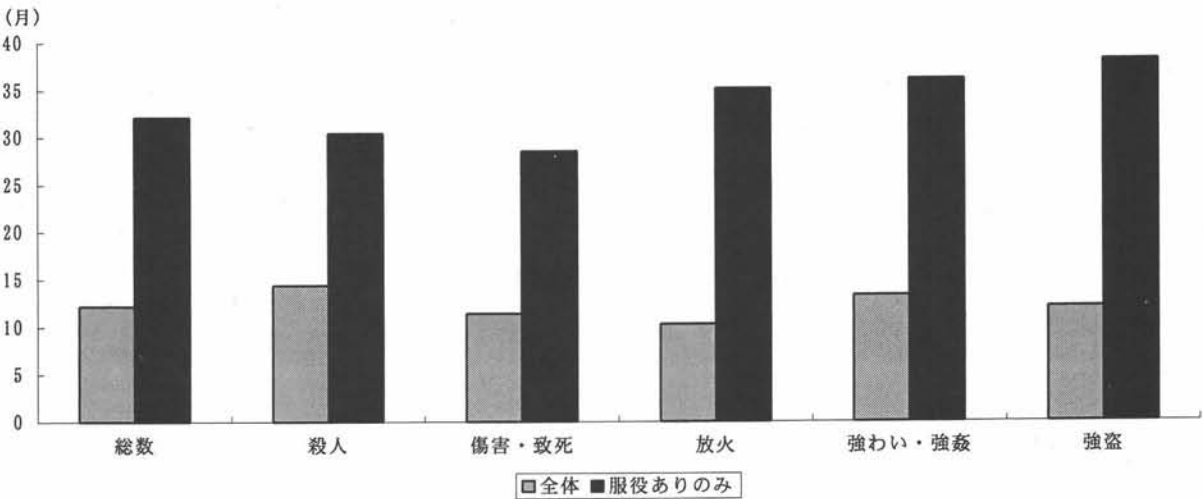
注 1 法務総合研究所の調査による。
2 色をつけたセルは、各罪種群ごとの上位 2 項目を示す。

図55 犯罪群別・10年内服役月数別構成比



注 法務総合研究所の調査による。

図56 犯罪群別10年内服役月数（平均値）



注 法務総合研究所の調査による。